

学校名	佐賀市立思斉中学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・小中一貫校として、合同の職員会議や研修会等を行い、児童生徒理解や授業改善を図っている。次年度も小中お互いに研究授業を行うなど、指導方法改善を図り、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導を継続していく。 ・小中連携をさらに充実させ、義務教育最終年度の目指す生徒像を共有し、9年間を見通した児童生徒の育成を図っていく。また、様々な交流活動や地域学習を通して9年間で地域や母校への愛着・自尊心を育んでいく。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送っているが、「挨拶」に課題があり、次年度も家庭や地域と課題を共有し、連携しながら改善を図っていく。 ・学校行事をはじめとして、様々な活動を通して、生徒一人ひとりの自己肯定感を育んでいく。 ・教職員の不祥事防止はもとより、業務改善を図り、教職員の資質向上に継続して努めていく。
------------------	--

2 学校教育目標	「見賢思斉」の精神で、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成 ～小中一貫教育の推進を通して～
----------	--

3 本年度の重点目標	(1) 知・徳・体のバランスの取れた生徒の育成 (2) 小中連携による教育活動の充実 (3) 地域と協働する学校づくり
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「自ら考え判断し、表現できる児童生徒」を育成するための授業改善	○「授業が楽しい」と思える生徒が85%以上 ○課題に進んで取り組む生徒85%以上 ○家庭学習や課題の提出率が95%以上	・基礎・基本の定着の徹底 ・分かりやすい授業のための指導方法改善 ・家庭学習の定着に向けた指導	A	・12月に学習アンケートを行った。「授業が楽しい」と思える生徒が90%以上いた。また、5月に学習アンケートを行ったときよりも、肯定的な回答をした生徒が増えた。 ・課題の提出率は95%だった。進んで取り組んでいる生徒も90%であった。今後、家庭学習の質をより高めたい。	A	・9割の生徒が「授業が楽しい」という意識がすごい。先生方の努力が結果になっていると思う。 ・学習効果が向上するためにも家庭学習はより大切だと思う。	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○無言清掃・係の仕事・ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒が80%以上 ○先生や地域の方、友達に元気に挨拶をしている生徒が80%以上	・QUを活用した学級づくり ・道徳・学活の計画的な実施と充実 ・生徒会活動の促進 ・ひまわり講座の実施	A	・11月にQUテストを実施し、5月の調査との比較分析を行った。生徒や学級の様子を把握し、学級経営に生かしている。 ・無言清掃・係の仕事に積極的に取り組む生徒の割合が97%であった。 ・元気に挨拶に取り組んでいる生徒の割合は98%であった。	A	・清掃や挨拶等100%に近い成果は立派。見賢思齊は論語の中の一節。人としての大切なことが満載である。ぜひ続けてほしい。	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校が楽しい」と回答する生徒が90%以上 ○友達と協力する気持ちや思いやりをもって接していると回答する生徒が80%以上 ○いじめ防止について組織的な対応ができていると回答する職員が90%以上	・人権集会やいじめ・いのちを考える日の開催 ・毎月の「心のアンケート」の実施 ・教育相談の定期を含めた実施及び充実 ・SC、SSW、サポート相談員との連携、報道相のスピードアップ ・いじめ対応に関する研修の充実	A	・道徳や学活の時間の計画的な運用により思いやりの心を育てる教育、グループエンカウンターの実施により他者理解、自己肯定感の高揚を目指した。 ・大きな行事に対しては、生徒たちの自主性を重んじる運営を行い活躍の場の保障を行った。	A	・生徒と保護者の理解を得ることは大変だと思うが、取り組んでいただきたい。 ・いじめられる本人はなかなか人に言えないことが多い。まわりの人が早く気づってやることが大変大事だと思う。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・学校行事等をはじめとして、生徒一人ひとりの活躍の場の提供 ・進路学習の充実 ・生徒一人ひとりの自己肯定感を高める取り組み	A	・「先生は、あなたのよいところ・頑張ったところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は、「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせるとどちらも90%を超えた。 ・生徒の頑張りに対して評価(ほめる)を心掛けていると申告した職員も90%を超えている。頑張る生徒の自己肯定感を高め、意欲を持たせる職員の声かけが、学校全体としてうまく機能していると考えられる。今後指導方法を改善しながら、共通理解を図っていきたい。	A	・人は自分のことを認められるとその人のことを好きになり、頑張ろうとする。昔から子どもは先生のことを好きになると心で慕い、手でまねると言われている。実感できていることはとてもよいと思う。 ・夢や目標を持てなくて、悩む子どものケアをお願いしたい。	
	◎郷土を誇りに思う教育	◎母校や郷土を誇りに思うと回答する生徒が90%以上	・小中一貫教育の推進 ・小中合同協議会の定期開催及び共通理解の促進 ・地域連携の推進	A	・教育相談部会を月2回行ったことで、不登校傾向の生徒の情報を学年の垣根を超えて共有することができた。そのため、不登校傾向の生徒数は減少傾向である。 ・母校や郷土を誇りに思うと回答した生徒は92%であった。 ・総合的な学習の時間でSDGsについて学び、校外学習では干潟の清掃などを行い、文化発表会においては学んだことを学年劇として発表することができた。	A	・郷土久保田や思斉館のことを誇りに思う生徒が9割を超えていたのはありがたく、大変うれしく思う。	
	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上 ●交通安全教室や防犯教室での講話を自分事として捉え、避難訓練を通して命を守る行動について理解できた生徒が80%以上	・部活動方針に沿った活動設定および健康維持管理能力の向上 ・規則正しい生活(食事)、適度な運動習慣を身ににつくような指導の充実 ・保健便りの定期発行による健康に関する意識の啓発 ・交通安全教室等を実施し、安全意識の向上を図る。	A	・グラウンドにサッカーゴールを常設したことや、屋休みの体育館開放に取り組んだことで、積極的に運動に取り組む生徒が増えた。 ・委員会活動で給食準備を素早く行い食べる時間を増やす活動や、残飯の様子を職員に周知し各クラスで量を調節することで、残飯を減らすことができた。 ・交通法規に規範意識をもって安全に通学する生徒が多かった。また、地域の方の協力により、大きな事故もなかった。避難訓練では、垂直避難袋による避難を実施しこれまで以上に防災意識をたかめることができた。	A	・運動に積極的であることはよいと思う。 ・中学生の大切な時期に体を鍛えることは、将来の健康のために大切である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○働き方改革を意識した業務遂行ができたと回答する教職員は80%以上	・出退勤端末の入力の徹底し、自分自身の時間外勤務の実態を把握 ・各自のタイムマネジメント力の向上 ・データや資料等の整理保存の徹底	B	・時間外勤務時間は年度初めと比較すると、減少傾向にある。長期休業中の定時退勤も概ね実施できた。 ・働き方改革を意識して業務遂行ができたと回答した職員は70%だった。次年度も意識向上を図りながら、実施していく。	B	・他の職場でも働き方改革がいわれている。学校は大変多忙であると思う。先生方もご自身の体を大切にしていきたい。	
	○コンプライアンスの意識の向上	○本校職員の関わる事件・事故の発生をゼロにする。	・職員会議毎に「ゼロの日」の実践の継続 ・講師を招き、服務に関する研修会の実施	A	・毎月の「ゼロの日」は実施できた。 ・職員の事件・事故は発生していない。全員が公務員としての自覚をもち、職務に従事しているので、次年度も持続させていく。	A	・学校内が安全安心であることが、教育上一番よいことである。先生方は大変だと思うが、ぜひお願いしたい。 ・自覚をもつことは大切である。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育体制の充実	○一人一人の能力や目標に応じた進路保障	○特別支援教育など個に応じた指導を行っている と回答する教職員は80%以上	・全教職員で共通理解及び校内体制づくり ・特別支援教育に関する職員研修会等の実施 ・保護者との連携	A	・95%の職員が「特別支援教育など個に応じた指導を行っている」と回答している。 ・保護者との面談を定期的に実施し、連携を図った。小学部から入級予定の児童・保護者との面談の機会も設け、中学校入学後の支援や進路について情報共有をすることができた。	A	・先生方の日ごからの努力・取組に敬意を表す。今後も生徒・保護者の思いに寄り添った対応をお願いしたい。 ・学校全体で共通理解を図ることは大変だと思うが、ぜひお願いしたい。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・小中合同協議会や研究授業を計画的に行い、小中の職員で児童生徒理解や授業改善を図ることができている。次年度も小中合同の研修会を通して、指導方法改善を図る。家庭学習の習慣化と内容の充実をさらに図る指導も継続していく。 ・9年間を見通した児童生徒の育成を図るため、小中連携の充実に努める。また、様々な交流活動や地域学習を通して義務教育期間で地域や母校への愛着・自尊心を育んでいく。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送っている。次年度も家庭や地域と課題を共有し、連携の強化を図る。 ・学校行事をはじめとして、様々な活動を通して、生徒一人ひとりの自己肯定感を育んでいく。 ・教職員の不祥事防止はもとより、業務改善を図り、教職員の資質向上に継続して努めていく。
--------------------	---